

# 科研費申請書の要点

2016/05 井上

## [1] 審査員の行動パターンと申請書の研究目的の重要性

科研費の申請書では、最初の研究目的に関する記述が極めて重要である。そこに全体が集約されており、ここがしっかりかけていなければ、その時点でおとされる可能性が高い。研究目的が魅力的なら、残りをしっかり読んでくれる。

忙しい審査員は、申請書を以下のようなことに注目しながら読んでいる場合が多い。

(A)概略の判定：研究目的を読んで、まず、おおまかな判定をする場合が多い

研究目的には、研究のエッセンスがかかれており、それを読めば研究の概要がわかる。科研費では、上位 30%に入らなければ、採択されないのだから何番目でも同じ。したがって、研究目的を読んで、とても採択される範囲に入りそうにないテーマについては、あとの資料はあまり真剣に読まないかもしれない。採択の可能性があると判断したもののについては、以下の (B)、(C) ((B)は時間がかからないので第一段階でも見る場合がある) を評価するために残りの部分もしっかり読むことになる。

(B)信頼できる人物か (結果を出す能力のある人物か)：論文リスト、科研費の実績、日頃の学会活動などで判定

専門が十分近くなければ、提案がおもしろそうでも本当にオリジナリティーがあるのか、実行可能なのかなどの判定は難しい。それを客観的に示す情報として、論文の査読者や過去の科研費の審査員の評価結果は参考になる。そのような観点から論文リストや科研費の実績を重視する審査員も多く、特に科研費の実績はよい印象を与えると考えられる。

ただし、これらは、申請時に急に改善できるわけではなく、それまでの積み重ねであるので、よい研究をして論文を書き、地道に信頼度を増していくことが有効である。日頃の学会活動も重要であり、そこでの活動によって、審査員が先入観を持つ場合もある。また、過去の研究の成果が実用化につながった事実や受賞なども信頼性に確保に寄与すると思われる。

(C)まじめに考えているか、実行可能な計画か：研究計画で判定

具体的な問題解決のシナリオができていないか、まじめに、実行可能な研究計画を考えているかなどの判定に必要である。目的を達成するための手順が具体的に記述されていればよい。幅広い分野の研究の融合が必要な場合には、分担者の構成もチェックされる。研究目的だけは記述できなかった部分を補足する意味もあると考えられる。

審査員は、上記の情報から審査の各ポイント (科研のホームページ→審査・評価関係→審

査評価について→**第一段階審査の手引き**を参照、これは一度読んでおく(とよい)を判断し、評価することになる。したがって、まず、研究目的を明確にしておくことは、審査員に研究が魅力的であることをアピールするためには重要である。

## **[2] 審査員が申請書の「研究目的」から知りたいと考える項目、「研究目的」整理のメリット**

申請書おける萌芽以外の研究目的(フォームより)には、以下のようなことを記述するように書かれている。

### **研究目的**

本欄には、研究の全体構想及びその中で本研究の具体的な目的について、冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述した上で、適宜文献を引用しつつ記述し、特に次の点については、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください(記述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」(公募要領75頁参照)を参考にしてください。)

- ① 研究の学術的背景(本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけ、応募者のこれまでの研究成果を踏まえ着想に至った経緯、これまでの研究成果を発展させる場合にはその内容等)
- ② 研究期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか
- ③ 当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義

[1]で述べたように、最初の2ページである「研究目的」は申請書のなかで極めて重要である。「研究目的」を文章としてまとめるのは時間を要するかもしれないので、とりあえず、「研究目的」におけるポイントとして以下の(1)から(5)を項目別に整理しておく(とよい)のではないと思われる。(申請書の①~③の内容を含んでいる)以下の5項目は、研究計画の基本的項目であり、

- ・審査員はその項目を知りたい。それをもとに判定するので、一度それを明確にしておくことは意味がある。
- ・その項目があれば、アドバイザーも審査員的な観点からアドバイスしやすい。
- ・自身でも審査員の立場で整理した結果を客観的に見ることができるので、場合によっては当初は考えていなかったことに気がつき研究内容がブラッシュアップされることもあり得る。また、申請書の文書化の準備となる。

などのメリットがあると考えられる。

### **整理すべき5項目：**

#### **(1)研究の背景・ニーズ (①の前提)**

意義のある研究かどうか判断される。

#### **(2)研究動向・解決すべき課題 (①研究動向、位置づけ)**

関連分野の研究動向を理解し、解決すべき技術課題あるいは新たに提案する技術課題がなにかを的確に把握しているかが判断される。

(3)研究のねらい・経緯 (目のつけどころ, 課題解決のため使える自身の強み, 特徴 (①これまでの研究を踏まえ着想に至った経緯, 発展や③の特色・独創的な点に対応))

最も重要な部分で, 特に研究のねらいは研究の創造性に直結する. 審査員にしっかり主張すべきポイント. 創造的でおもしろい着眼点があればよい印象を与える. 例えば, これまでできなかった重要な技術課題を, 自身の強みに裏付けられた創造的な発想でブレイクスルーしようとするのであれば, 魅力的な印象を与える.

(4)研究を通して得られる具体的知見・物 (②の期間内に明らかにすること対応)

(5)成果の意義 (③予想される結果と意義に対応)

(4)(5)あわせて, まず, 技術的に具体的に何に挑戦して何をブレイクスルーするのかを示す. 明らかにするというのは, いままではわからなかったこと, できなかったことに応えることと考えられる. 次に, それが(1), (2)にどのように貢献するか 波及効果も含む. この部分は(3)で主張する創造性を具体的に後押しできる内容, すなわち創造性を感じさせる内容であることが望ましく, (3)と同様に重要である. (4), (5)を別々に記述するか, 合わせて記述するかは, 書きやすいほうを選択すればよいと思われる.

以上は, 論文の構成とも似ているが, 科研費の審査員は論文の査読者よりも, 分野が広いことが多い (細目の性質によっても異なるが) ので, その人たちにある程度理解できる書き方が必要.

結局, どのようなニーズがあり, その研究動向および解決すべき課題は何で, また, それを解決するための着目点と自身の強みがあればそれを示し, 何をやって, 何を明らかにして, 社会にどう貢献するかを, 魅力的に, かつ, わかりやすく説明することによって, 審査員に「なるほどおもしろそうだ」と思わせることが重要である. (1)から(5)を見れば, インパクトがあるテーマか? 創造性豊かな技術レベルの高いテーマか? はおおむね判断できる.